

10年間、アフガン難民の子どもたちに 笑顔を贈ったガールスカウトの「ピースパック」

2004年12月15日、「(社)ガールスカウト日本連盟」が1994年から10年間、アフガン難民の子どもたちに贈ったピースパックに対して国連難民高等弁務官より、

「感謝の盾」が贈呈されました。

このプロジェクトは、1993年「ガールガイド・ガールスカウト世界連盟」が平和提唱の一環として、世界各地の難民の子どもたちにプレゼントを贈ろうと決議し、UNHCRとの共同事業として始められました。世界各地のガールスカウトたちが参加しましたが、日本連盟はアフガン難民の子どもたちに対する支援を行い、2004年末までプレゼントを続けました。これまでに新品の文房具や日用品の入った

ピースパック計16万個(1包みが3000円相当)、さらに約7万2000足の靴や3万2000個のサッカー・ボールが寄付されました。このプロジェクトに参加したのは延べ約50万人にのぼります。ガールスカウトたちだけでなく、地域の学校などでもバックの中身が集められ、世界的にアフガン難民に対する関心が薄れていた時期にも継続されたこの支援は、多くの日本の子どもたちとアフガンの子どもたちを繋ぐ架け橋となりました。

アフガン難民への支援は2004年に終了しましたが、日本連盟では新たな難民支援を検討し、2005年から新プロジェクトが始まります。



「感謝の盾」を手にする東山元子連盟会長とビルコ・コウルラUNHCR駐日地域代表。
写真: The Japan Times

女優の菊川怜さん、難民キャンプを訪問

昨年、女優の菊川怜さんはUNHCR東京事務所の依頼により、難民やUNHCRについて日本国内で広報活動を行う「スペシャル・サポーター」に就任しました。サポーターとしての活動期間は2005年の初めから2年間です。

菊川さんは、今年に入り1月17日から4日間、ケニアにあるソマリア難民キャンプを訪問しました。ケニアのダダブにある3か所のキャンプには現在、難民約15万人(主にソマリア難民)が暮らしています。キャンプを訪れた菊川さんは、病院や学校を訪れ、昼食の配給などの援助を見

ました。学校では、生徒たちに絵を描いてもらったり、歌を歌ってもらったり、将来の夢についての話を聞きました。また、持参したサッカー・ボールで子どもたちと一緒にサッカーを楽しむひと時も。

菊川さんは、「今後も世界の難民キャンプを訪れ、難民の様子を同世代の日本の若者に伝え、一緒に考えていきたい」といいます。なお、キャンプ訪問の様子は日本テレビ「真相報道バンキシャ!」(1月30日)と特別編「菊川怜の暮らしたアフリカ難民キャンプ日記」(2月5日)で放映されました。



サッカーボールを手渡す菊川さん。

写真村田信一

津波被災者へのご支援 ありがとうございます

UNHCRは、昨年12月26日に起きたスマトラ島沖地震とその津波被災者への緊急支援をインドネシア、スリランカ、ソマリアで行っています。難民に対する保護や援助という本来の任務ではないものの、国連事務総長からの依頼、未曾有の被害の規模、そして、何よりも被災者の中にUNHCRが援助してきた人々が多く含まれていたためです。主な

活動は、仮設住居や食料を除く物資の配給、アクセスの困難な被災地への物資輸送などです。こうした活動にはUNHCRが培ってきた緊急事態への対応の経験や技術が生かされています。

支援活動には6か月間で総額7600万ドルが必要です。これまでに日本からは政府の1500万ドル(約15億円)の拠出のほか、衆・参両院の国会議員から計720

万円、共産党から約760万円の資金協力をいただきました。一方、民間からも、立正佼成会(1000万円)の他、真如苑(300万円)、浄土宗(200万円)、人類愛善会(200万円)、全日本仏教会、曹洞宗婦人会、ネットワーク『地球村』からのご支援を含め、個人や団体から、合計3924万8739円(2月16日現在)が日本国連HCR協会を通じて寄せられています。また、日本を含む全世界から寄せられた援助金総額は、約5000万米ドル(3月11日現在)です。みなさまのご支援に深く感謝いたします。